

伝道主日
説教

語り続けよ。黙っているな

<使徒言行録8:9~11>

全 聖 三 (布施教会)



ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」

エリヤはバアルの預言者と戦い大勝利を収めた。でも次の瞬間にはイザベルの言葉によって、恐れに支配され逃げ出した。エリヤは「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください。」「わたし一人だけが残り、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています。」物凄い重圧がエリヤを襲ったのだ。

重大な神の御心を行おうとするときには、想像を絶するような霊的な戦いがあるようである。イエス・キリストのゲッセマネのように。著者ルカは18章からコリントでのパウロの伝道を書き記している。主からの幻を見る前にパウロは驚くべき宣言をした。福音を受けいれないユダヤ人たちに「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」と語った。どれほどの反対があっても神が喜ばれる伝道を、異邦人伝道をするという決意のあらわれであった。

伝道は霊的な戦いである。「ある夜」に霊的な重圧がパウロに重くのしかかったと思われる。もう黙っていたい。これ以上語りたくない。人間の力では到底に抗えない闇の力だ。しかし、そんな時に主は出会ってくださり、励まし、命の御言葉を与えてくださった。

この年、わたしたちもパウロのように伝道すると固く決意をし、勝利を主から受けるためにパウロの受けた幻を、神の御言葉を自らのものとした。

主は第一に「恐れるな」と語られた。神は人を創造して祝福された。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」しかし罪に陥り、支配する側から支配される側に移された。そのような私たちをキリストの血潮によって新たに、「恐れ」から解放してくださった。完全な愛は恐れを締め出す。

第二に「語り続けよ。黙っているな」と主は命じられた。伝道がどれほど尊い業なのか？ その使命がどれほど重要なのか？ 主は私たちに是非に知れと「語れ、黙るな」と強調して

くださった。今の溢れる情報の中、御言葉を聞くことの飢饉が起こっている。信仰がなくては神を喜ぶことが出来ないといわれている。そして「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」(ローマ10:17)。御言葉を、福音を語ることが出来る者がどこにいるのかと神は求めておられる。救われた私たち全員に伝道の使命を主は託された。にもかかわらず多くのクリスチャンは黙っている。講壇に於いてだけ語る牧師と聞くだけで終わる聖徒になっているのではないのか？ イエスを受け入れることなしには救いはない。伝道してこそ増殖、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」が成就するのだ。

第三は大いなる慰め「インマヌエル」「わたしがあなたと共にいる。」という約束である。偽りを言うことが出来ない主がいつもどこでも共にいてくださる。そのために主は一度死んで、そしてよみがえられた。この方が共にいるので「だから、あなたを襲って危害を加える者はない」と宣言される。感謝と恵みが溢れる約束の御言葉である。

第四は私たちの働き、伝道を通して救われる魂が、神の民になる者が大勢起こされるという祝福である。エリヤの時代にもバアルにひざをかかめない7,000人がいた。漁師であったベテロたちを主は用いられた。まさに普通の人だった。そして必ず、私たちを用いて大いなる業をさせてくださる。主イエスは「はっきり言っておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである」(ヨハネ14:12)。

この世の終わり、重要な役割を持つこの日本に私たちは遣わされた。そして私たちに希望の御言葉を与えてくださった。「この町には、わたしの民が大勢いる。」いや「この日本には、主イエスの民が大勢いる」主イエスはこのようにも弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」(マタイ9:37~38)。収穫が多いと。

ある韓国の宣教師が言われた。日本の歴史をあまり知らない彼が「この日本には多くの殉教者の血が流されています。その血によって必ずリバイバルが起こります」と。私も信仰によって語る。「この日本にリバイバルが必ず起こる。」私たちが信じて語り続けよう。

讃頌歌委員会より「子どもさんびか」が発行されました。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒 集録
(いずれも韓国語・日本語)
一冊 1,000円
お問い合わせは総会事務局へ
電話 03-3202-5398



韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格: 2,500円(消費税・送料込み)
- ※お求めは総会事務所へ

関西地方会

2020年「新年査経会」開く

教役者セミナーも同時に開催



関西地方会伝道部主催の2020年新年査経会が、『平和を実現する人々は幸いである』(マタイによる福音書5章9節)を主題に、1月11日(土)から13日(月)まで3日間にわたって開催された。今回は、関西地方会に所属する3名の牧師を講師としてお招きした。

1日目は、1月11日(土)午後7時から大阪教会で行われ(72名参加)、李承厚牧師(京都東山教会)より『一步の幅の土地さえも』(使徒言行録7章4～16節)という主題で説教がなされた。

2日目は、1月12日(主)午後3時から大阪北部教会で行われ(91名参加)、金大賢牧師(南港伝道所)より『起きて食べよう』(列王記上19章1～8節)という主題で説教がなされた。

3日目は、1月13日(月)午後6時から京都南部教会で行われ(53名参加)、裴貞愛牧師(京都教会副牧師)より『信仰の競走を忍耐強く』(ヘブライ人への手紙12章1～14節)という主題で説教がなされた。

なお、同日午後2時から『平和統一に向かって』という主題で教役者セミナーが開催され、平和統一会議準備委員会委員長の鄭然元牧師(大阪教会)より今年10月に開催予定の平和統一宣教会議について報告を聞くよい機会となった。

(報告：伝道部書記 金有良伝道師)

西南地方会

正初査経会・都諸職会開催

「豊に生きる信仰」をテーマに、講演



「豊に生きる信仰」をテーマで、郭鏞吉牧師を講師に招き、西南地方会の正初査経会・都諸職会が主の恵みによって去る1月12日の午後、福岡教会で開催された。今回の集会は「豊に生きる信仰」という主題で、郭鏞吉牧師が講師を担当された。1回目は、「十分に食べなさい」(二テモテ3:15～17)、2回目は「変化が解決する」(ローマ1:15～17)という題によって恵みの時間を過ごした。

都諸職会は西南地方会長の金仁果牧師の司会によって、各教会の新年の標語と牧会計画、そして教会の事情を分かち合う貴重な時間になった。遠い沖縄教会をはじめ、各教会から50名が参加して暖かい交わりのときを過ごした。

(報告：郭鏞吉牧師)

西部地方会

日韓交流信徒大会開催

「主は一つ、信仰は一つ」主題のもと

西部地方会と日本基督教団兵庫教区共催で、2020年1月13日(成人の日)に神戸東部教会において、主題「主は一つ、信仰は一つ」、副題「わたしの恵みはあなたに十分である」(第2コリント12:9)として第36回日韓交流信徒大会が開催された。

開会礼拝は糸原由美子実行委員会委員長(教団 栄光教会)の司会で、日本語、韓国語による聖書朗読、日韓合同聖歌隊によるハレルヤコーラス、「イエス・キリストを受け入れる事」と題する韓承哲牧師(神戸東部教会)の説教があり、共に聖餐式をあげた後、2名の新成人の祝福式を寺崎真伝道師(教団小野教会)の司式で執り行われた。

礼拝後は11の分団に分かれて、昼食をとりながら、意見交換と交わりをし、祈りの時を過ごした。

午後からは「竹中真さんによるジャズ演奏と証し」があり、参加者全員が恵みに溢れる時間を過ごした。

開会礼拝での席上献金は「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」(山口県宇部市)と「台風15号、19号の被災地支援」への献金として捧げられた。

今大会では教団24教会・69名、西部地方会6教会・34名、合計103名の参加があった。

(報告：梁昌熙長老)



西南地方会

クリスマス音楽礼拝開く

楽しい交わりのひと時を過ごす

12月8日、下関教会において西南地方会9教会から94名が集い、クリスマス音楽礼拝を開催した。(西南女性会・青年会主催)

1部礼拝は、韓京我青年部長(福岡教会)の司会で金成彦牧師(下関教会)が「取るに足りない人から主を迎える備えが始まったことを覚え、暗い時代、困難な状況にあっても愛と真実をもって与えられた小さなことを誠実に行おう。」と説いた。また、連合聖歌隊(指揮/高文局長老、伴奏/趙容賢執事)が声高らかに主を讃美し、千奉祚牧師(折尾女性部長)の祝祷で終えた。

2部交流会は、高ヨハン、金草緑氏(福岡教会青年)の司会で各教会の子どもを含めた全参加者が順に登壇し、手話合唱、踊りと讃美、フラ、民族舞踊等の出し物があり楽しい交わりのひと時であった。



青年会全協

第1回中央委員会開催 暖かく迎えてくれた訪問各教会に感謝

去る2019年11月23日(土)～24日(主)に、青年会全国協議会(以下、全協)の第1回中央委員会が、博多教会にて行われた。8名の役員が集まり、主に今年度の進むべき方向性を議論した。そして「主を愛し、隣人を愛す」という主題を掲げ、神様が喜ばれることはなにか、という視点で1年間歩むことを決意した。その後、全協役員との交流を目的として博多周辺にて食事会の時間をもった。

主日には西南地方の個教会訪問を行った。会議を行った博多教会をはじめ、小倉教会、熊本教会、福岡教会、福岡中央教会、別府教会、そして初めての訪問となる下関教会を含む7教会を訪問し、それぞれの場所で礼拝を捧げた。礼拝中に全協PRをさ

せていただき、多くの方々から賛助を頂戴した。訪問した全ての教会で私たち青年を温かく迎えてくださったことに感謝したい。また、各教会で多くの青年と出会い、修養会での再会を約束できたことも大きな成果であった。



これまで西南地方の青年との交流が少なかったが、神様が青年の輪を西南地方まで広げてくださっていることを感じる事ができた貴重な2日間であった。
(報告：中野晃徳)

青年会全協

第2回中央委員会開催 第20回青年研修会について論議

去る2020年1月18日(土)～19日(主)年が変わり、雪の降る中、私たち青年会全国協議会(以下全協)の会議が東京希望キリスト教会で行われた。8名の役員が集まり、全協報告、地方会報告、



各部報告から始まり、会議時間の大部分は3月20日(祝)～21日(土)にかけて西新井教会で開催される「第20回青年のための研修会」(以下青年研)につ

いてであった。今回は20回という節目であり、多くの青年に参加してもらうため、年間を通した主題「主を愛し、隣人を愛す」に加えて、「人生の選択」というテーマを軸に置いた。この「人生の選択」は進路や留学、就職、転職など、さまざまな悩みを抱えている青年に対して、少しでも力になることができると考え、神様の導きで人生の選択をした青年たちが証をするという内容だ。会議後は、東京希望キリスト教会の申大永長老任と夕食を共にし、空腹も満たされ楽しい時間を過ごした。

二日目の主日には東京希望キリスト教会、千葉教会、川崎教会、品川教会、横須賀教会、東京東部教会に分かれて訪問し、全協の活動報告と賛助のお願いをさせていただいた。各教会の信徒の方々や青年達と交流することができ、各々恵みある暖かな時間を過ごすことができた。

今年度の役員になって4か月経とうとしているが、神様が選び、集った役員で青年研をより良い研修会にするために努めていきたいと思う。神様をまだ知らない青年、信仰の友を探している青年、そんな青年達を少しでも救えるように祈って迎えたい。
(報告：乾春紀)

参加手記

アジア・エキュメニカル女性総会に参加して

鄭 詩 温 (大阪教会、関西学院神学大学院在学中)

アジア・キリスト教協議会(CCA)の主催による初のアジア・エキュメニカル女性総会が2019年11月22日～26日、台湾基督長老教会(PCT)の新竹聖經学院で開催され、アジアの21カ国253人の参加者が集まり、私が在日大韓基督教会からの推薦を受けて参加した。

同総会のテーマは「立ち上がり、目覚めよう。被造世界の修復、刷新、和解のために」であった。アジアを中心とした各地における被造世界全体のいのちや環境問題といった諸問題への取り組みについて話し合われた。

初日の講演は、PCTのヴァヴァウニ・ラリエグアン原住民伝道師が今総会の主題について、旧約聖書の声なきタマルの苦しみのお話を皮切りに、台湾原住民女性の現状を話してくれ



た。尊厳を喪失したタマルと台湾原住民女性は同じく苦しんでおり、誰も彼女らの泣き叫ぶ声を聞き入れよう

としない、疎外された存在なのだと、ヴァヴァウニ伝道師は涙を浮かべながら語られた。

2日目以降の講演とパネルプレゼンテーションでは、修復、刷新、和解をテーマに各国で様々な活躍をされている神学者、牧師、そしてイスラム教、仏教、ヒンズー教の女性代表らが登壇した。中でもイスラム教神学者デヴィ・カンドラニングラム博士によるインドネシア慰安婦問題の演説が印象的であった。加害者と和解しようとする慰安婦との連帯をアートを通じて表現することで、内なる精神的な変化が起こる、それは自分のアイデンティティを取り戻す手段だと語りながら、色とりどりに描かれた慰安婦の絵を見せてくれた。

ワークショップでは、それぞれ幅広い問題について取り上げられ、参加者にアジアにおけるエキュメニカルな働きに加わるための行動と実践的な方法を共有できる場であった。私は青年ワークショップの主催側として、女性の学歴と就職について、香港の現状について登壇した。

今回の総会は、現代において小さくされている者や声を上げることすらできない者の声を私たちがどのように聞き、共に立ち上がることができるのかについて話合える場所だった。話合うだけでなく、共に祈り、痛みを分かち合うことのできる場でもあった。そして、その働きには教派や宗派は関係ないことを改めて実感できた。

訪問
手記

朝鮮キリスト教連盟訪問記 <4>

大阪教会 鄭然元 牧師

6. 七谷教会を訪問する

本総会訪問団は2019年7月28日(主日)、朝鮮キリスト教連盟本部訪問と鳳岫教会での主日礼拝を捧げた後、平壤市西側に位置する光復通り沿いの七谷教会を訪問した。

長い間に渡って雨が降らず、苦勞していた平壤に恵みの雨が続けて降っていた。七谷教会にて呉景雨牧師と副牧師、長老、聖歌隊のメンバーが、礼拝が終わった後であったが私たち代表団が来るのを待っておられた。

呉景雨牧師は「朝キ連」にて書記長をされた方でもある。2002年7月に東山荘で開催された第8回「祖国統一と宣教に関するキリスト者東京会議」に康永燮委員長と共に来られ、今回訪問においてその間の本会議と関連ある行事に直間接的にかかわりある関係者の中では最も古い。車から降りる私たち一同に傘を持って駐車場まで出向いて私たちを迎えた。

七谷教会は1899年当時に平壤萬景臺区域七谷洞下里に位置していた。洪シングルと言う人が伝道され、板洞教会/1893年(後に平壤章臺岷教會に変更)にて信仰生活していた信徒ら13-14名が中心となり、3部屋の小さい家を買って「下里教会」を建てた後、七洞教会と呼ばれるようになった。

1914年、洪シンシル氏の息子である洪ソングン氏が初代長老として教会に仕え、金日成(本名:金成柱)主席の外家親戚が集まるようになった。金成柱の義祖父康敦煥長老は厳格なる信仰者として、また江西地方の教育者として下里教会に仕え、彰徳学校を設立し、後学に力を注いだ。金成柱の父の金亨稷は平安南道大東郡ゴピョン面南里萬景臺にて生まれた。崇実学校を中退した後、萬景臺にある醇化学校にて教師をした。萬景臺において醇化民俗指導者と呼ばれた曹晩植長老は金亨稷を学校の後輩と言っていた。金亨稷は夫人の康盤石とアメリカの宣教師の「ネルソン・ベル」の仲人によって出会うようになった。「ネルソン・ベル」は「ピリーグラム」牧師の義理の父であり、彼がその夫婦と直接的な関わりがあるのは「ピリーグラム」牧師が生存していた時に金日成と何度も会っていた事と関わりがあったように思われる。

幼い頃の金日成は両親に連れられ松山教会に出席していたが七谷教会にて数年間教会学校に通いながら外家の親戚である康良煜牧師から聖書を学び、義祖父がキリスト教の精神で設立した彰徳学校で教育を受けていた事は「金日成主席回想



録」1刊に書かれている。

1895年アメリカ長老教会の宣教師が最初に福音を伝えた平壤は「東洋のエルサレム」と呼ばれるほどにクリスチャンが多かった。6.25動乱によって教会堂は破壊され、信徒らも分散されて各家庭においてのみ礼拝を守っていた。そんな時に光復通りが造られアパート団地が築かれ、また社会主義体制下にありながら1989年七谷教会が建築された。一説によると金日成主席が光復通りを現地指導して始まったと言われている。金首席はこの地域を見まわした後に自分の幼年時期に通っていた教会を思いながら「七谷の彰徳学校の裏に教会があったが、もし信徒らが望むならばその場所に礼拝堂を建てても良い」と言い、遂行した。金正日(当時、秘書)に実務的な責任を任せ、昔の「下里教会」を探して教会堂の建設を指示したのであった。

七谷教会は1992年に建てられた教会をそのままにして二番目の教会が建築された。場所は三番目に建っている現在の教会堂の土地に建築された。

11月22日収穫感謝節を兼ねた献堂式には、朝キ連委員長の康永燮牧師(現康明哲委員長の父親)、書記長の高基俊牧師と鳳岫教会李ソンボン牧師らが参加した。二番目の礼拝堂では22年間礼拝を行ったが、韓国の教会指導者らと海外から平壤を訪問したキリスト者が集まり礼拝を献げ、「ピリーグラム」牧師が訪問した際には説教をする事もあった。以降2013年4月から2014年7月末までの1年3ヶ月にかけて三番目の教会堂が建築された。

私たち訪問団が教会に入った時、聖歌隊の賛美で私たちを出迎え、呉景雨牧師が七谷教会の紹介と教会指導者らを紹介された。主日礼拝が終わった後だったので信徒たちとは会えず残念だったが、私たち訪問団を迎え入れた教会の指導者、特に聖歌隊14名が何曲か力強く美しい賛美を歌ってくれ、私たち訪問団も応答の賛美を歌いながら共に写真を写し、信徒の交わりの喜びを分かち合った。

七谷教会の隣には「磐石公園」がある。七谷教会堂と七谷革命展示館、彰徳学校があり金日成主席の幼年期とその母を懐かしむ姿を見ることができる。私たち南と北、海外同胞や信徒皆が一つとなり神様に向けた礼拝と喜びの賛美を共に分かち合えるよう、神様の時を待ちながら共に祈りを捧げ七谷教会を後にした。雨が降るその主日、傘をさしてくださった呉牧師と指導者らは私たちの車が教会の駐車場から出る所まで手を振って見送っていた。

